

令和7年度第1回青森市廃棄物減量等推進審議会

会議概要

1 日時

令和7年5月23日（金） 13時00分～13時40分

2 場所

青森市中央市民センター 3階 大会議室

3 出席者

【委員】

佐々木委員（会長）、西田委員（副会長）、青山委員、鈴木委員、竹中委員、三津谷委員、森委員（一戸委員が欠席し、8名中7名出席）

【事務局】

環境部 佐々木部長

環境政策課 菊池課長、環境保全課 田村主幹

廃棄物・リサイクル課 阿部課長、松原主幹、日渡主幹、平井主査、佐藤主事

青森市清掃工場 小関場長

浪岡振興部市民課 熊谷課長

4 会議の公開、非公開の別

「青森市附属機関の設置及び運営に関する指針」に基づき、会議は原則として公開することとしており、当審議会においても公開とした。

5 会議内容

（1）令和7年度第1回審議会

①組織会

②審議会①報告案件「可燃ごみ排出量の状況」

②報告案件「青森市一般廃棄物処理基本計画の策定について」

配付資料「資料1：可燃ごみ排出量の状況」、「資料2：青森市一般廃棄物処理基本計画の策定について」を事務局から説明を行い、委員から意見・質問等をいただいた。

③その他

④閉会

6 会議要旨

(委員)

- 「資料２：青森市一般廃棄物処理基本計画の策定について」の３：基本計画の見直しの背景の（２）廃棄物処理施設の老朽化について、今回の計画を策定する中で具体的に施設の建替えにも言及する程度の老朽化が進んでいると理解していいか。

(事務局)

- 具体的に、現在イメージしている老朽化している廃棄物処理施設とは、昭和５８年から運用している青森市一般廃棄物最終処分場を指しており、この施設の建替えの必要性についても検討していこうということを計画の中に盛り込むことを考えている。ただし、建替えの詳細を記載するかどうかについては、現時点でそこまで具体的なイメージは持ち合わせていない。

(委員)

- 「資料１：可燃ごみ排出量の状況」の真ん中の表の下※のところ、令和７年度にはリサイクル率が１．５ポイント上昇して１５．２％と見込んでいると記載されており、令和２年度・３年度の１４％代、令和６年度の１３．７％から大きく伸びているが、何か特別な理由があるのか。

(事務局)

- 資料の※に記載されている青森市清掃工場の破碎選別処理施設は、不燃ごみを細かく砕き、鉄やアルミを取り出す設備である。令和２年５月に青森市清掃工場で火災が発生し、長期間停止していたが、今年度中に破碎選別処理施設が再稼働することにより、鉄やアルミの資源化が可能となるため、リサイクル率が若干上昇すると見込んでいる。

(委員)

- 「資料１：可燃ごみ排出量の状況」について、５年間の目標を大きく上回る減量化が進んだことは大変喜ばしいことだと思っている。そのおかげで、令和８年度から浪岡地区のごみが青森市清掃工場に移行される状況になり、さらに、今年度には浪岡地区の皆様にごみ出しルールの変更が周知されるのではないかとと思っている。その変更の周知に際しては、ごみの分別方法の変更だけではなく、ごみの分別の重要性についても併せて周知されるものとなれば、とてもいい機会になると思っている。その結果、来年度のリサイクル率の向上に一層寄与することになるのではないかと期待している。

(委員)

- 今年度の清掃ごみを見た時に、裏面のエコルちゃんのイラストが掲載されている箇所に、市民１人あたりのごみ排出量について、令和５年度の速報値が９８５ｇであり、目

標値を令和10年度までにこれまでより5g減らして980gにしよう」と記載されているが、目標値が低すぎるのではないかと疑問に思っている。

○青森市のごみ排出量は、全国と比較して非常に多い。私が調べたところ、県内では26番目に多く、八戸市は1人あたり836gであるのに対し、青森市は985gである。県全体を見ても、青森市のごみ排出量は多く、全国的に見れば青森県は後ろから3番目の多さだと調べたらわかった。むしろ青森県は全国的に見てごみ排出量が多い地域であることを伝えるべきだと考える。もし資料に記載するなら、「青森県は全国でも多い方である」と明記した方が良い。以前、私がイベントで県内の1人あたりごみ量を提示した際、八戸市やおいらせ町の住民は自分たちの地域の数値を気にしやすくなる。比較することで、「自分たちも減らさなければ」という意識が高まる。今、青森県が全国で何番目に位置しているか、一般の人々はこの事実をあまり知らないため、正確な情報を示すことが必要だと考える。そうすれば、皆の意識も高まり、やる気が出るし、負けないように努力する動機付けになるだろう。この「清掃ごよみ」は、多くの人に届くものであり、非常に影響力のある情報だと考える。したがって、そこに記載する内容は、より効果的に伝わるよう工夫すべきだと思う。

（事務局）

- 昨年度の10月に策定した青森市の総合計画において、目標値として1人1日あたり980gを目指すと定めたため、令和10年度の980gという目標を掲げている旨をまず清掃ごよみに記載し、総合計画との整合性を図ったものである。
- 令和8年度の清掃ごよみの掲載内容について、市民により効果的に伝わるよう検討する。

（委員）

- これまで青森市もさまざまな取組を行い、ここまでごみの総量が減少したことは、ある意味景気の影響もあるとの意見もあるが、清掃工場の処理可能量を大きく下回っていることは、非常に大きな部分だと思う。ごみ処理の関係においては、いろいろと新たな局面や背景が出現してきていると思っている。「資料2」3にも記載されたとおり、津軽の広域組合の関係で動きがあったり、また、プラスチックに関する法律の関係で製品との一括回収を行う必要性が生じたりと、さまざまな動きが進行している時期であると思う。このタイミングで計画の策定を行うことも、ある意味適切な時期を捉えていると考えている。こうした状況の変化を踏まえ、更に3Rの推進の観点からも、「資料2」3の（1）から（4）までに記された内容には、非常に重要なヒント等が含まれていると考えており、これらを的確に把握し、また一層リサイクル率の向上や排出量の削減に向けて取り組んでいただきたいと考えているので、よろしくお願いいたします。